

習近平体制の現状と第3期政権の展望  
——権力の伝統に回帰する中国政治——

鈴木 隆（愛知県立大学）

1. 習近平時代の支配の正統性と統治の現状

a) 習近平政権の3つの正統性要素（国民の支持調達の要素）

- ①「豊かさ」：ただし、2000年代までの高度成長による生活水準の急速な改善は見込めない
- ②「便利さ」：社会生活のIT化による利便性向上など、身近な暮らしの満足感の向上
- ③「偉大さ」：「一帯一路」や軍備増強などの対外的パワーの誇示、国民の国家的自尊心の増進

b) 最近における上記3要素の毀損

①「豊かさ」の現状

- ・2020年以來のコロナ禍、加えて、ゼロコロナ政策の弊害としての政策不況
- ・とくに、若年層の雇用不安が深刻化

②「便利さ」の現状

- ・社会生活への十分な配慮を欠いた、ゼロコロナ政策への市民の不満蓄積
- ・とくに2022年3月以降、オミクロン株の感染拡大に伴い、多くの都市でロックダウン強行

③「偉大さ」の現状

- ・2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻、プーチン支持の中国への国際的非難の高まり
- ・中国国民の間でも、ロシア支持への懐疑的感情の広がり

※ これら状況により、政権の権威と支持は2021年以前に比べて低下

※ 2022年末にゼロコロナ政策を解除するなど、現在、上記3要素の立て直しに努めている

2. 20回党大会と第3期習近平政権の特徴：中国政治の伝統回帰の兆し

a) 政治報告の注目点

- ・「中国式の現代化」による独自路線追求の主張
- ・欧米諸国の歴史経験に由来する近代化モデルとその発展の歩みについて、その拒絶を含意

※こうした主張に基づく対外政策は、欧米が主導する既存の国際秩序に対する異議申し立てと挑戦を必然的に内包している

b) 指導部人事の特徴

- ・ 習近平派の男性・中高年・漢族の人々でポストが独占された

※ 人事におけるダイバーシティの欠如（例：派閥、ジェンダー、年齢、民族）

c) トップリーダーとサブリーダーの関係

- ・ 習近平の個人独裁の傾向が強まる
- ・ 重要な意思決定を習近平が独占し、習とそれ以外のサブリーダーたちの「その他大勢」の横並び化が進む

※ 習近平と他の政治局委員・常務委員の関係が、一種の「君臣関係」へと変化していく

- ・ 毛沢東と周恩来以下の他の指導者は、〈専制君主とその従僕〉のような関係であった  
例：楊尚昆（毛沢東の下で長らく中央弁公庁主任を務めた）の毛沢東に対する尊称は「主」「主座」「主公」で、同志的關係というよりは主従関係
- ・ 習近平と丁薛祥（中央政治局常務委員、兼、中央弁公庁主任）も長年の上司－秘書の関係（同じく常務委員の李強も浙江省時代の秘書）

d) トップリーダーと社会との関係

①中国は GDP 1 万ドル超えの社会

- ・ 2019 年に中国の 1 人当たり名目は GDP 1 万ドルを突破し、2025 年までには世界銀行の基準でいう「高所得国」となる見込み
- ・ 今日の中国社会は、「家族と個人の時代」、大量消費社会などの言葉で特徴づけられる

②習近平が見出した「家族と個人の時代」のあるべき指導スタイル

- ・ 国内統治では、格差是正と教育政策の 2 つを重視
- ・ 教育政策にみられるように、個人の私的領域にも強力に介入する父権主義的リーダー

※ いわば〈中華民族の父〉として、「子」たる次世代国民の財産の公平な分配に腐心しつつ、ある時は「和平演変」（民主化）という反抗の芽を摘み、またある時は「中華民族の偉大な復興」のため、教育を通じて競争心と勝利の気概を叱咤激励する家父長的指導者

**3. 「習近平時代」の指導者と体制のリスク**

- ・ 習近平個人と共産党の一党支配を揺るがす可能性のある 3 つのリスク

①習近平その人の政治志向と指導スタイル

②国民のナショナリズム感情の肥大化（とくに台湾問題と海洋進出の 이슈）

③最高指導者の権力継承

以上